

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203329		
法人名	株式会社 浅野工務店		
事業所名	グループホーム 花の里・萌 1階		
所在地	岡山県倉敷市黒石247番地の1		
自己評価作成日	平成22年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203329&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまで過ぎて来られた生活や人生が継続できるようなケア、入居者一人ひとりの主体性・可能性を重視するケアを目標に、入居者一人ひとりの出来ることや希望を把握し、職員がすべてをこなしてしまわずに、入居者が関わりやすい環境を整え主体的に取り組めるように支援を行っている。家族の面会時には職員の方から積極的に声を掛け、十分に情報交換を行うように心掛け、信頼関係が築けるように配慮を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今までの暮らしを大切にしたい支援、家族や地域との関係を絶たない支援を目指して介護が実践されている。地域住民とは、日ごろから散歩の機会などを通して自然な交流が図られており、毎年事業所が開催する祭りには、多くの地域住民が参加している。職員は、家族や入居者の思いを良く汲みとっているようで、家族からは、「気持ちが和らいだり安心が得られる」と評価され、職員と家族との信頼関係が構築されている。入居者一人ひとりに対するケアのあり方について、家族を交えて良く話し合いが行われており、入居者が落ち着いて生活できる環境づくりがなされている。実習の受け入れ等を通して、人に教えることで職員も勉強し、向上していけるようにと人材育成にも意欲的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアの目の行き届きやすい場所に掲示し、各々理念について理解し、実践への取り組みを行っている。	理念は、事務所内に掲示してあり、カンファレンス時など折に触れ確認し合っている。具体的な年間の目標を決めて取り組んでいる。今年は、入居者を人生の先輩として尊重するよう、接遇面で言葉の使い方に特に注意を払っている。	サービス向上に向けて目標を決めているとのことだが、文章化されていない。今後は文章化して、目標の期間ごとに評価していられるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の祭りや運動会等に参加し、交流を図っている。毎年、萌祭りへは地域の方がたくさん参加して下さっている。	近くの幼稚園児と交流したり、事業所の祭りには、毎年多数の地域住民が参加している。地区の祭りでは、子ども神輿も来てくれ、お茶をふるまって交流を図っている。入居者の散歩中には、地域の方も良く声をかけてくれるとのことである。	今後も地域の方たちとより良い関係が継続するよう期待する。地域ボランティアの活用等も検討されてはいいかであろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域の方へ当事業所での認知症介護の実践内容について報告を行い、参考にして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催。地区の自治会長や愛育委員、家族代表、地区の包括支援センター職員、他グループホーム管理者、当事業所代表者、管理者、系列事業所管理者が毎回参加し、その都度テーマを決めて報告、意見交換を行っている。	2か月に1回、地域の方や家族代表、他のグループホーム管理者が出席して、事業所の取り組み状況などを報告している。	記録からは、サービスの向上につながるような具体的な意見交換は確認できなかった。他のグループホーム関係者や家族代表も参加しているので、より多くの意見を聞き出していかれるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区の包括支援センター職員と運営推進会議の際に、積極的に意見交換を行うようにしている。また、日頃のケアサービス上での疑問点や不安なことがあった場合は、市の介護保険課へ問い合わせを行うようにしている。	包括支援センター職員や市町村担当者とは、入居の相談をしたり、空き情報を知らせたりしている。介護保険課職員には、気安く教えてもらえるような良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いたり、日頃から身体拘束についての話をするなどし、職員間で身体拘束を行わないケアを行っていく為にはどのようなしたらいいのか、話し合い、実践している。	玄関は開錠しており、職員の見守りが行われている。身体拘束をしないケアに取り組むことはもちろんのこと、言葉による拘束などにも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて、虐待に対する知識を共有し、虐待防止への意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が家族からの相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一通り説明した後、質問・疑問等に答え、納得した上でサービスを利用して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の関わり内で利用者の意見・要望には注意している。家族の面会時にも何か意見等ないか聞くようにしている。意見箱を設置し、意見・要望等の受け入れが出来るようにしている。	入居者とは日ごろの会話の中から、意見や要望を聞き出すようにしている。家族には、面会時や年1回開催される家族会で、意見や要望等を聞くようにしている。	入居者や家族から、満足の評価が得られているが、さらに入居者や家族の本音が聞けるような関係づくりをすすめていき、運営に反映させていかれることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から業務内で気付いたこと等その都度、聞く様な体制を図っている。月一回ミーティングを開催し、お互いに意見交換を行っている。	毎月1回、または重要な議題があればその都度ミーティングを開催している。代表者も会議には出席しているが、管理者にある程度の権限を与えている。職員も会議では活発に意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日職員と同じように勤務したり、毎月の勤務表を作成する等、職員一人ひとりを把握しており、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修を受けたり、職員のスキルアップの為に資格取得へのバックアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム2ヶ所の運営推進会議へ職員を参加させ交流が図れるようにしている。今後は、他事業所職員と交流できる機会を築いていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行ったり、入居後もコミュニケーションを図ることでご本人の想いを受け取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で話を聞いたり、入居後も面会時等、出来るだけ話をすることで要望を聞き出したり、相互の関係性を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人と家族との面接を行うことで、必要な支援へのアドバイス等、行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と協力して食事作りを行ったり、掃除を分担する等し、利用者の方の出来ることはして頂き、協力し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に施設内での状況説明を行ったり、家族の方との会話内容をお聞きすることで、職員・家族共に利用者の方を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居期間が長くなり、次第に関係が途切れてくる方が多くなっている。日頃の会話の中で思い出していただいたり、希望に応じて友人の方へ電話をかけたいという要望に応えたりしている。	6月に退去された方は、友達が手弁当で面会に来ていたとのことである。遠方の友人に手紙を書いてもらうなど、入居者個々の残存能力に応じて方法を検討し、馴染みの人との関係を断ち切らないように支援をしている。	年々認知機能の低下により、馴染みの方との関係継続が難しくなってきたとのことであるが、関係が途切れないような支援の工夫を今後も期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中でしっかり全体を観察し、利用者間の関係性を把握している。常に全体を見ることで、孤立されることなく対応が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前サービスを利用されていた方の家族が、知人に紹介され、その方の相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な方はコミュニケーションを図る中で希望についての把握を行っている。会話が困難な方は、家族の方と話をしたりして検討している。	職員は、入居者の思いを知るには自分から関わらないと心が見えないとの思いから、積極的にコミュニケーションを図るようにしている。家族からも情報を得たり、一緒に話し合ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方に話をお聞きしたり、日々のコミュニケーションの中で色々な話を聞く事で、その方のこれまでの人生について知るようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日毎に一人ひとりの状態を把握し、無理なく過ごして頂けるよう、援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一回、介護計画の評価を行い、六ヶ月に一回、カンファレンスを開催し、介護計画に変更はないか話し合いを行い、状況に応じたケアについて検討している。	3か月ごとにモニタリングを行い、大きな変化がない場合でも6か月ごとに計画を立て直している。家族の意見も聞き、計画に反映させている。毎月のミーティングでは、入居者一人ひとりについて情報を交換し、ケアについて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で分かり易いように内容を記入したり、申し送りノートを活用したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズへの対応が厳しいと思われる事へも、代表者が出来るだけ柔軟に対応するようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域の包括支援センターや市の関係機関との連絡をとり、状況に応じた対応が行えるように努めたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医についてお聞きし、利用者・家族の希望に沿うようにしている。ご家族の方が受診の付き添いを行われる場合には、日頃の健康状態や医師への連絡事項等についての伝達を確実にすることにより適切な医療が受けられるようにしている。	入居者や家族の希望を大切に、受診先を決めている。受診時は、基本的には家族が送迎しているが、都合がつかない場合には職員が対応している。家族や職員間の申し送りを徹底できるよう、受診記録に記載し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時にその都度、状態説明・気になる点について報告・相談し、アドバイス等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には定期的に病院との関わりを持つようにし、利用者の方の状態等についての情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の指針に沿って対応を行っていく旨を利用者本人及び家族に説明し同意を得ている。	入居時には、指針をもとに家族に説明し同意を得ている。職員は、看取りについて家族の希望に沿いたいと考えているが、現在までにまだ看取りの経験はない。	入居時に意向を確認していても、時間の経過とともに気持ちの変化もあると考える。折に触れ、事業所でどこまでできるかの説明や、入居者や家族の意見を再確認しておかれることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、緊急連絡網を分かり易い所に掲示している。応急手当の訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、6月と12月に消防訓練を行っている。地域との協力体制が築けるように、毎回運営推進会議で協力を呼びかけている。	年2回、入居者も参加して避難訓練を実施している。当日参加できなかった職員には、図上で避難経路を確認してもらうなどシミュレーションを実施している。	運営推進会議で、地域住民の協力を要請するほか、避難訓練に地域住民が参加できるような日時・方法等を検討され、日ごろから協力体制を作っておかれるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を職員間で把握できており、各々の誇りやプライバシーの確保が出来る。	入居者一人ひとりの性格や残存能力、興味などを見極めて、対応をしている。職員は、入居者のそばで、ゆっくりと自然体で話しかけたり、必要な支援を行っている。プライバシーを損ねるような対応は見られなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から話を聞き出す事で利用者の方の想いを理解するようにしているが、想いを表せない方については表情等から窺うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の希望を聞き入れながら支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をして頂くように援助を行ったり、好みに合った洋服を勧める等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には一緒に料理作りをして頂いている。テーブル拭きや食器をおぼんに乗せる下膳等、出来る方にはして頂いている。	両ユニット共、栄養士のたてた献立を基本とした食事であるが、誕生日には好みの物を取り入れたり、おはぎ、たこ焼き、カステラなど手作りもしている。職員も食事介助や楽しく会話をしながら、一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	随時、食事・水分量の把握を行い、一日でバランスよく摂って頂けるよう、様々な工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夕食後には義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンや兆しを把握しながら、トイレ誘導を行っている。	一人ひとりの排泄パターンをみて、トイレに誘導するなど必要な支援を行っている。夜間はポータブルトイレやおしめを使用している方がいるが、日中はトイレでの排泄を支援している。プライバシーに配慮し、大声での誘導などはみられなかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には出来るだけ水分を勧めたり、下剤調整を行ったりと、便秘への予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後から入浴を行っている為、午前浴や夜間浴への対応は行っていない。出来るだけ一人ひとりの希望に沿えるよう声かけ等行い、週3回以上の入浴を行っている。	午後からの時間で、一人ひとりゆっくり入浴できるように支援している。毎日入浴している方もいる。	午前浴や夜間浴への対応は現状では困難とのことであるが、たまにでもそれまでの生活と同じような時間の流れが作れるような人員配置などの工夫を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間あまり寝れていない場合は日中、臥床時間を設けている。入床時間も一人ひとりの希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋内容を各自で確認したり、薬の内容が変更になった際は申し送りノートに記入し、共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔、裁縫を仕事にされていた方には縫い物をして頂いたり、家事が得意だった方には一緒に材料を切ったり、盛り付けをして頂いたりしている。役割として、洗濯物干しや洗面台掃除、手すり拭きを毎朝して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部の利用者の方に関しては、気分転換を兼ねて買い物に出かけたり、散歩に出たりすることはあるも、希望に応じた外出はなかなか行っていない。行事として外出の計画を立て、行っている。	入居者の希望や、外出の頻度などを考慮しながら、外出支援が行われている。ドライブ、花見、買い物、神社や公園など外出の機会が多い。近くにある同法人のグループホームに出かけたり周辺の散歩にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にてお金は預かっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方の希望があれば、職員が間に入りながら電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物や汚物等がないように気を付けている。温度や湿度にも注意している。季節に応じた壁面製作を利用者の方々と行い飾り付けを行ったり、行事の写真を飾ったりすることにより単調にならないように工夫を行っている。	共用空間には、レトロなポスターや手作りの作品、入居者の生活ぶりを紹介する写真などを掲示している。テラスをカラオケルームに変え、憩いの場所としている。ピアノやソファを配置し、くつろげる場所となっている。清潔で広々としており、入居者は思い思いの場所、方法で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子がフロア内にあり、ゆっくりと過ごして頂けるような場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みのあるタンスやベッド等を持って来て頂いている。	自宅で使っていた馴染みのある生活用品を持ち込んでいる。作品や家族の写真を飾ったり、個性的な設えである。畳でしか寝起きしていなかった新しい入居者のために、居室に畳のスペースを設けるなどの配慮も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を十分に行い、危険なく移動して頂けるよう、配慮を行っている。テーブルや椅子の位置も工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203329		
法人名	株式会社 浅野工務店		
事業所名	グループホーム 花の里・萌 2階		
所在地	岡山県倉敷市黒石247番地の1		
自己評価作成日	平成22年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370203329&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年10月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の目のつく場所へ張り出しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が地元暮らししているため、地区の催しもの(運動会、祭り等)への参加や地域の住民や子供たちとの交流が行いやすい。散歩の時には、挨拶をかわすなどコミュニケーションに努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、地域の方へ当事業所での認知症介護の実践内容について報告を行い、参考にして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、意見交換を行い、サービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区の包括支援センター職員と運営推進会議の際に積極的に意見交換を行うようにしている。また、日頃のケアサービス上での疑問点や不安なことがあった場合は市の介護保険課へ問い合わせを行うようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は行っていません。勉強会を開催し、身体拘束について正しい知識を持ち、身体拘束のないケアの継続に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じて、虐待に対する知識を共有し、虐待防止への意識を高めています。日頃から利用者様の全身状態の観察を行い、異変がすぐに発見できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が家族からの相談に対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一通り説明したあと、質問、疑問などに答え、納得した上でサービスを利用いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様はその都度、ご家族様は面会時や電話連絡時等に情報交換し意見や要望があれば検討会を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に、月1回ミーティングを開催し、参加職員が意見交換しやすいようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日職員と同じように勤務することにより、毎月の勤務表を作成するなど、職員1人ひとりを把握しており、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修を受けたり、職員のスキルアップの為に資格取得へのバックアップを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム2ヶ所の運営推進会議へ職員を参加させ交流が図れるようにしている。 今後は、他事業所職員と交流できる機会を築いていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。 ご本人様の会話のペースに合わせ、顔を見ながらゆっくりお聞きしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めています。 入居前面接時、入居後の面会時にはお話をさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向をまず伺い、どのようにすればご本人様にとって一番良いかをスタッフで検討し、再度ご本人様、ご家族様に話し納得されてから対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けていると考えます。 どのようなケアでも、ご本人の意思を尊重しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは面会時に状態報告を行っています。また、受診をご家族にお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今のところ行えていませんが、以前は近所のお友達が面会に来てくださったり、ドライブ中に家の近くを回ったりしていました。今後も、ご希望に応じて対応を行っていきたいと考えています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一部、ひとりを好まれる方がおられますが、食事の時や行事には孤立されることなく他の利用者様との交流が図れるように支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて、対応できる体制を整えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ、ご本人様の希望に添えるようスタッフと検討しあい努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族よりお聞きしています。入居後も会話の中でどのような生活をしてこられたかをお聞きしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調、精神状態の把握に努め、1日を過ごしていただけるように援助を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時にそれまでの状況説明を行った上で今後の希望、意向をお聞きし、ご本人を交えて職員間で検討を行ってプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については月に1度見直しを行い、よりご本人様の状態に応じたケアを提案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所での対応が困難と思われるような事柄が生じた場合にも代表者が可能である限り相談に応じる体制を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて、地域の包括支援センターや市の関係機関との連絡をとり、状況に応じた対応が行えるように努めたいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援しています。 入所時にかかりつけ医と緊急を要する場合の病院をお聞きしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援しています。訪問看護は毎週金曜日にあり、状態報告をしアドバイスを受けています。また、病状が悪化した場合等には連絡を行い指示や処置を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間中、面会に行き、主治医や看護師と情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所の指針に沿って対応を行っていく旨を入居者本人及び家族に説明し同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回のミーティング時や、その都度行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行えています。 人生の先輩として尊敬を持って対応を行うよう心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自己決定を尊重しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援しています。 基本的には、ご本人の自己決定を尊重しています。希望に添えない場合はご本人と話し合います。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服はご本人と相談して選ぶようにしています。ご自分で行える方もいらっしやいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	足元のが悪いご利用者様が多いため、一部の行える方に準備の手伝いをお願いしています。片付けの際にはお盆にのせて下膳の手伝いをして下さいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取が少ない方には、食べやすい形態にししたり、高カロリーのを補食として提供するようになっています。水分がこまめに摂れる様、個人個人のペットボトルに入れお渡ししています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でされる方は、声かけ(準備)にて行っていただいています。介助の必要な方にはその方のできる力に応じて支援させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、全員トイレでの排泄を行っています。尿・便意のない方は定期的に声かけ介助を行っています。夜間は定期的にパット交換、確認を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず、自然排便がみられるように個人の状態に応じた対応に心掛けています。具体的には運動不足の解消やトイレ誘導のタイミング、牛乳等の飲用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には自己決定を尊重しています。毎日入浴される方も多くおられます。タイミングが合わないときは時刻をずらして再度声かけを行う等、気分良く入浴していただけるよう配慮を行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個人個人の睡眠パターンの把握に努め安眠できるよう支援を行っています。また、夜間不眠等により日中傾眠が見られる場合には適度に休息をとっていただくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬が新しくなった場合には申し送りを行い、把握を行っている。服薬時には名前・日時を確認し服用していただいています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自分から楽しみを見つけて過ごされている方もいらっしゃいます。他の方にも、できるだけ役割や楽しみを感じながら過ごしていただけるよう行事を計画したり、日常生活上で支援を行ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、日課として町内の散歩を行っている方の支援を行っている。行事としての外出は行えているが、今後は個人の希望に応じて個別に外出が支援できるようにしていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて管理させていただいています。少額個人で管理を行っている方がいらっしゃいますが、使用されることはありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援を行っています。帰宅願望時にご家族様へ電話をかけたい方がいらっしゃいますが、しっかりお話を聞いて下さるようにご家族様に依頼し対応させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物、汚物等注意をはらっています。また、温度、湿度についてもこまめに注意しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの所々に椅子、ソファ、机を配置しそれぞれが「その時居たい場所」を提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす、小物、衣類等、ご自宅で使用されていたものを持ってきて下さっています。また、ご本人が好まれる物の情報によりご用意させていただくこともあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備、時に足元に危険のないようにつとめています。 また、テーブルや椅子の配置についてもその都度工夫しています。		